

# 都小っ子だよ

西都市立都於郡小学校 第2号 令和元年5月13日

## 地震への備えと心構え

最大震度5弱の地震が起きたのは、5月10日（金）午前8時48分でした。緊急の校内放送を流し、児童を運動場に避難させました。子どもたちは慌てずに行動していました。その後、運動場の日陰で1時間半程待機し、教室に戻りました。

この日は、タイミングよく避難訓練として保護者への児童引渡しが予定されていました。午後3時半からの保護者への引渡しも、全ての保護者の方々が迎えに来られて、40分程で終了することができました。私は、校長として、児童と教職員と保護者の避難訓練への真面目な姿勢に大変感動いたしました。

私たちが教職員は、これから先、災害が発生した時、子どもの安全を第1に考えた対応を一層工夫してまいります。今後とも保護者の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

## 「ママのスマートフォンになりたい」

シンガポールの小学生が書いた「自分の願い」についての作文を、たまたま母親が目にします。そこにはこう書いてありました。

ぼくの願いはスマートフォンになることだ。ママとパパはスマートフォンが大好きだから、ママとパパはいつもスマートフォンの事ばかり気にして、僕のことを気にしてくれない。ママは疲れて帰ってきてても、スマートフォンのための時間はあるけど僕のための時間はない。ママとパパは、大切な仕事をしている時でも電話が鳴ったら、すぐに電話を取る。ぼくが泣いてママとパパは、気が付くまでほくなくスマートフォンで遊ぶ。ママもパパも、電話で話しているときから、ぼくが願うのはスマートフォンになることだ。

子どもにとって一番身近で自分を大事にしてくれるはずの親が、自分に関心を向けてないということは、「自分は価値がなく、親から愛されるに値しない存在だ」という理解になって心に刻まれていきます。

子どもと向き合って、子どもの目を見て会話を交わし、子どもと触れ合って、お互いの心と体の温度を感じることを大切にしたいものです。

## 子どもが先、スマホは後でいきましょう。



## 特別の教科「道徳」とは？

道徳が教科化された理由の一つとして、いじめの問題を挙げる事ができます。そもそも道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるための基盤を培うものであり、いじめ解消と強く関係しています。道徳教育を要として、教育活動全体で推進していかなければなりません。価値観が多様化し、情報が氾濫してきた今日においては、道徳教育をもう一度見つめ直し、真剣に取り組むことの必要性が出てきました。

教科化されても学ぶ内容に特に大きな変化が出てくるわけではありません。大きく変わるのは、授業の形態や指導に関することです。これまでは、読み物教材や映像資料を見て、登場人物の心情理解をしていくという授業が多かったようですが、これだけでは道徳的な学びが十分とは言えません。いじめ問題の解消につながるような学びにはならないでしょう。道徳科の時間で何よりも大切なのは、教材から読み取った内容や道徳的な価値を、自分のこととして受け入れ、実践に結びつけていくことです。

子どもの道徳性を磨くためには、学校の授業だけでは足りません。家庭におきまして、学校で起きたことや社会の出来事などを話題にするなど、子どものものの考え方や感じ方が偏ったり、間違えた方向に進んだりしないように導いてください。

日本人の美德とも言える「道徳心」を学校と家庭、地域が一つになって、子どもたちに伝えていきましょう。



～6月の主な行事予定～

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 1日(土)  | オープンスクール・教育講演会<br>PTA ミニバレーホール大会 |
| 5日(水)  | プール開き                            |
| 27日(木) | 1・2年生発表集会                        |

相田みつを 名言集より  
「セトモノとセトモノどぶつかりっこすると、すぐこわれちゃう。どっちかがやわらかければだいいじょうぶ。やわらかいところをもちましよう」